

廣益俗說辨九

地理 人物 官職
文籍 器用 音樂
畫圖 歲時

1 3

954

10

伊 3
號 954
卷 10

廣益俗說辨卷十八目錄

雜類

地理

補 豐蘆原中國の說

新 扶桑國の說 附黑齒國

同 君子國の說

同 日本國の說

同 東海姫氏國の說 補

同 日高見國の說 補

同 常世國の說

廣益俗說辨卷十八

付録ふき安東中^ウ國といふをばく私とゆふは
わら^ハ後^ノ程^ニ論^ス天地^ノ日^ノ地^ノ形^ノ有^リ高^下無^ク適^ニ而^テ不^レ為^ス
中^ニや^ハわ^レた^ハま^ニと^ハふ^ニ極^ニと^ハ云^ハたりと^ハい^フと考^ヘ
如^レ魚^ノ

新^ニ扶^ス桑^ノ國^ノ説^ヲ 附^シ黑^ノ齒^ノ國^ノ

倭^ノる^ニ小^ノ扶^ス桑^ノ國^ノと^ハい^フて^ハ日^ノ本^ニ此^ノ稱^ヲと^ハ竟^ニく^ニと^ハる^ニ此^ノ
わ^ラわ^ラひ^ハ日^ノ本^ニと^ハ黑^ノ齒^ノ國^ノと^ハ竟^ニく^ニと^ハる^ニ者^ハなり

西^ノ塞^ノ松^ノ下^ノ氏^ノ云^フ扶^ス桑^ノハ^ハ東^ノ夷^ノ此^ノ國^ノの^ノ名^ヲ東^ノ海^ノに^ハゆ^キ
日^ノ本^ニる^ニ不^レ近^ニと^ハ記^スと^ハゆ^キな^ニ倭^ノわ^レや^ハい^フて^ハ扶^ス桑^ノ
と^ハ日^ノ本^ノの^ノ別^ノ号^ヲと^ハ信^ス杜^ノ氏^ノ通^ス典^ニ云^フ扶^ス桑^ノハ^ハ大^ノ漢^ノ國^ノに^ハ東^ノ

二^ノ万^ノ餘^ノ里^ノに^ハわ^レり^ニ其^ノ土^ノは^ハ扶^ス桑^ノが^ハ海^ノに^ハ本^ノに^ハ葉^ノ個^ノと^ハ
似^ニま^リり^ニ初^ニめ^ニ中^ノに^ハ海^ノと^ハ記^ス筆^ノに^ハと^ハ一^ノ國^ノ人^ノら^ハは^ハ食^ス
ぬ^キ実^ノハ^ハ梨^ノに^ハと^ハけ^レて^ハ幸^ニと^ハま^ニが^ハと^ハ漬^スて^ハ存^スと
一^ノ衣^ノや^ハ板^ノ屋^ノと^ハは^ハけ^レる^ニ紙^ノは^ハけ^レる^ニ不^レ城^ノ郭^ノが^ハ
文^ノ字^ノわ^レり^ニ云^フ甲^ノ形^ノに^ハ攻^ス戰^スセ^ハ後^ノ半^ノ角^ノわ^レり^ニ甚^ニと^ハ云^フ
角^ノと^ハい^フて^ハと^ハれ^レと^ハの^ノと^ハ二十^ノ斛^ノと^ハい^フゆ^キと^ハい^フと^ハ車^ノに^ハ
る^ニ車^ノ無^ク車^ノに^ハり^ニ國^ノ人^ノ無^クと^ハ云^フ一^ノか^ハ事^ノ半^ノに^ハと^ハ
不^レ化^スと^ハい^フる^ニ瓶^ノわ^レり^ニ金^ノ銀^ノと^ハま^ニの^ノと^ハ後^ノ漢^ノ經^ノに^ハ刻^ス
と^ハ云^フと^ハい^フり^ニと^ハ云^フと^ハい^フて^ハ我^ノ日^ノ本^ニに^ハ事^ノふ^ニ考^ヘる^ニに^ハ
扶^ス桑^ノわ^レる^ニと^ハと^ハい^フる^ニ城^ノ郭^ノ甲^ノ云^フに^ハ守^リわ^レり^ニ半^ノ角^ノに^ハ

へりて他國の号と爲て我國は号と次國中イに馨シキと
さう叙たりモシ若枝桑國の者フさうシめル常シと
けて第ニの國

新 君子國の院

俗るよ日本此事と君子國と覺シまシゆシ此ノ方ニ
今按るよ我邦國祚の所と志數千百歳と
統トウと繼キ後ノ事ニつキて此國はなニるニ論ニんニやニと
さニ小君子國と稱スとゆニとモ祚ニふニさニるニさニへニるニ
ゆニれニ去ニ山海經ノ倭ノと君子國と我別國ニて
いニと君子國衣冠帝ノ飯ノ食獸使ニ二ツ大虎ニ在ニ旁ニとニ人ニ

好讓不爭有薰華州朝生夕死

後漢書東夷傳云
東方有君子不死國

ゆニ化ニと天地開ニるニ故ニ來ニ我國ノ虎ノとニはニるニ人ニ
ふニことニとさニ次ニ葉ニ花ニ事ニもニかニりニ是ニと考ニへニるニ日本ニ
の号ニとわニるニとニはニ我ニ知ニへニるニ

新 若木國の院

俗るよ日本此事と若木國と号とゆニとニありニ

今按るよ山海經ノ若木國ノ厥ノ中ニ之ニ山ニと樹ニ青葉ニ
赤葉ニ名ニ曰ニ若木ニ日ニ出ニおニ生ニすニやニわニるニ日本ニとニりニ
ふニ生ニとニわニるニ我ニ知ニるニと日本此事ニ也ニ覺ニくニるニとニありニ
たりニとニれニとニ若木ニとニはニとニりニてニとニ相違ニとニ知ニへニるニ

新東海姫氏國所説

倭國云日本國の後流なり天照大神ハ其地泰伯
 たり和みなりと漁と和み一終る風よりかきけ
 我國より人へはき終る地と名なり日向と名付
 無國と日知と名付又東海姫氏國と名付泰伯姫氏
 乃終るなり天照大神の像と云ふのでゐる實事子
 中より泰伯國より終るなり一先れと云ふ
 及び一八日本人を才と文ゆせと此多し今此の
 して衣服と異服と云ふ食器と異器と云ふは時を
 は居宅と云ふて宅居と云ふと泰伯と云ふて泰

とは云ふ一終るなり一終るなり一終るなり
 と此と云ふ出害と云ふ終るなり一終るなり一終るなり
 一と云ふ

今按る日本國の後流なり天照大神ハ其
 乃泰伯と云ふ地と神祇部小洋と論と云ふ一又
 東海姫氏國と名付終るなり一終るなり一終るなり
 て和み一終るなり一終るなり一終るなり一終るなり
 終るなり一終るなり一終るなり一終るなり一終るなり
 四乃号ハ其地と名付一終るなり一終るなり一終るなり
 一終るなり一終るなり一終るなり一終るなり一終るなり

へて号せり神祇部又天照太神代像と作て
 西宮重みとり事及日本代人身と文より事
 及及る但しは倭流と誤るゝひる又異服とハ
 幸八日中紀中應神天皇三十七年二月初日帝
 天下乃人民衣服裁縫乃御くハかゝる裁れ
 之終阿智使主都賀使主と異國よはくハ
 縫工女と求光モト一ゆ終の吳王タクミノ丁女エノ兄イハ姉エノ中ミナ吳
 織ハ中ミナ織ハ四人乃婦女と事ハ中ミナ織ハ乃ハ是吳服乃
 一ゆあり又吳器コキと事ハ中ミナ織ハ乃ハ是吳服乃
 門器ゴキと事ハ中ミナ織ハ乃ハ是吳服乃
 補續日本紀云御器膳神宮雜例

集云御器長刀彌敢貞元モト女メ健物終云ハ中ミナ織ハ乃ハ是吳服乃
 又云志代流氷方ハ易傳云上古之時草居露宿
 恙ツカハ齧蟲也善食人心俗悉患之故相勞云無恙ハ
 憂也云群クニ碑錄云恙毒蟲也能傷人古人草居露宿
 故勞云無恙日中代事ハ非多代知ハ此段小補
 新日見見四乃脱
 俗乃日見見乃四乃喝ハ其子細と知人希方り
 今按く元々集云豐葦原千五百秋之瑞穂四

壇^{イハ}々^{イハ}杵^キ杵^キ々^{イハ}い^{イハ}お見^ミ青^{アヲス}不^フ含^ヘれ^ニ三^ミ神^{カミ}と天^{アマノ}津^ツ日^ヒ多^タ室^{ムロ}
 津^ツ日^ヒ多^タと^ト六^{ムナシ}皆^{ゾレ}貴^キ方^{カタ}称^{セウ}方^{カタ}帝^{テイ}都^ト方^{カタ}北^{キチ}戎^{エウ}
 予^{コノ}祝^{イハヒ}して日^ヒ此^{ココ}大^{オホ}多^タよ^ヨあそ^{アソ}く^クわ^ワり考^{カウ}へ^ヘふ^フ人^{ヒト}一^{イチ}
 比^ヒ藤^{フジ}補^ホ

俗説に常世に四ハ仙人名在居たりと云

西峯松卜氏云日本紀云常世に長鳴鳥ナギあり。少彦名命スサノヒコナノミコ常世に通ツキす。少彦名命代々此の常世國ハ紀伊粟津の事と云ふ他列志云海部郡加古屋加古村の西南は粟津の社あり此社古ハ友々傳の内小傳多と云ふ事あり中より少彦名命と延喜傳或ハ名多那知と云ふ社とわさしとも今ハ社分り。各名小ありて今海部よりいふこととわたり伯耆風云化云相見勢は粟津より少彦名命粟莠と符ハ実難く。則ち粟津傳ハ常世國故云粟津。之を入世令為世の

國は抄く田舎間と云々此國は後くは次なる一
市代名なりわくま後城と指原氏物語に胡代常
世と云々くひきなり。○予按ふ。伊勢風云此云
神風伊勢常世波寄國也常陸風云此云常陸國所謂
水陸之府藏物産之膏腴古人云常世之國蓋疑
此地矣或名曰高見國也とわり後拾遺集に伊
勢元浦くふいみえ此云一此國やかさうに
うてりなりわくま常世明なり

補

速吸名門の説

倭國云速吸名門ハ伊豫國なり

今按ふ。速吸名門ハ伊豫國なりわくま後國
海神那伊賀那より伊賀國北云早吸名門ハ
伊賀國乃乾より聖より伊賀國で海神乃速吸
日本紀ハ伊賀縣有住見栗門及速吸名門と云
不有り潮よりかりと云々て隅と吸うと云々
故ハ速吸名門といふ名門ハ難記なり日本紀纂疏
云潮大急則速吸之義明矣とわり委ハ神祇部
小書より伊賀を見たり

補

伊賀國乃乾

伊賀國乃乾

倭説云、藤原賴房ハ神功皇后ニ轉カり、戒定カ意、乃
賴房カハ海濱カに埋カ死カせ給カふ故カニ名付カくカと云
今按カふ、非功皇后カの所カに死カすカ佛徒カなり
以カこれより叔代カ經カて敏達カ欽明カの朝カよりわきまカり
多カ相違カ儀カあり、八幡カ本紀カ云、應神カ天皇カ御カ座カの
日カ所カ胞カ衣カ浦カ不カれカうカ、あま川カに死カすカと云
三本カと今カも胞衣カ浦カと云カ、後賴カといカふ、芦津カみカに
ありカと上カは松カと云カ、乃カて標カなりカ、後世カわカりカあ
名カつカまカり、賴房カといカふカと見カえカるカう

補 秋田城の説

倭説云、秋田城カ久カしハ城氏カ比カ者、秋田カと領カせカ給カふ名
はくカし

今按カふ、右カの説相違カせり、秋田城記カ云、昔カ築カ秋田
雄勝カ二城カ以カ為カ東北カ之管轄カ、其後カ廢カ之、寶龜カ十一
年カ復カ城カ于秋田カ、知羽カ州カ者カ為カ城カ、介カ或カ時カ兼カ鎮守カ府
將軍カ或カ兼カ奥羽カ按察使カ昌泰カ二年カ罷カ之、永承カ五年
九月カ以カ平繁盛カ為カ城カ、介カ厥カ後カ又カ廢カ焉、建保カ二年
三月カ藤景盛カ任カ之、其子カ義景カ孫カ泰盛カ相繼カ近世カ織
田信忠カ兼カ之、其カ為カ重任カ可知カ也、此カ説カと考カふカへ

補 信文掎の説

神龜元年歲次甲子按察使兼鎮守將軍從四位
上勳四等大野東人朝臣之所建也天平寶字六
年歲次壬寅參議東海東山節度使從四位上部
省卿兼按察使鎮守將軍藤原惠美朝臣揭修造
也天平寶字六年十二月二日也わり
右大納言朝
ろくろわりみちのめいそとあかひあき
ろくろわりみちのめいそとあかひあき
ろくろわりみちのめいそとあかひあき
相遠と云はる

神

手譚池乃説

俗伝云ふ海うへにありしときふも豫池ハを後國佐
國乃白浪と云ふ事なり

今按ふも豫池ハを後國佐國乃わり後肥後天
多ふわりのと云韻府群玉云手潭池日本國有凝
露臺臺上有手潭池池上有玉基子不由制度黑白
分明。太平廣記云日本國王子来朝璣言云唐宣
宗朝日本國
王子来朝善國棋本國之東有集真嶋嶋上有凝露臺々
上有手譚池池中出王子不由制度黑白分明冬
温夏冷故謂之冷暖玉月令廣義云冬冷暖基子冬
云玉性冬則暖夏則冷。又杜陽雜編又
載此事。貝原翁云冷暖基子本日本國名類
考へんはる

續古井小怪乃説

今按ふは怪めわゝ次輟耕録云峨嵋乃摘葉剝
 中の者乃磨下此枯井小猫抄此を紙に
 死をんとて人残へる小おとぬきくびき井まの文
 残へるは二人とも死にたり是年むすく乾涸
 中を井なりぬ陰毒凝結とも氣はわて死
 したるなり酉陽雜俎は古北井古北隊なり
 ちよ八陰毒凝結とも放夏秋乃間おく人とも
 ともはるふ鷄毛ともおくは毒世保元は鷄毛

續
塩井乃硯

信後之わふ國よ塩物系井わりをわびうしわふ信
 所乃者名子免水塩物と井物なりしむわふ
 山中とてとるわ物か物して塩とを物とて
 今按ふに非なりわ系綱目云鹽井者今歸州及

同 長者セウ代シ後

同 百姓セウ代シ後 補姓セイ氏シ之シ別ヘツ 訂補

同 奏者ソウ代シ後

同 人ニ工ク乃ク後

同 孫ソウ子シ代シ後

同 檀タン那ナ乃ク後

同 宰サイ人ニ代シ後

同 換ケン技ケ勾コウ當トウ乃ク後

補後ク倉ク而ニ官ク代シ後

○ 文籍

補官カン音オン乃ク後

○ 器用

補再サイ拜ハイ乃ク後

○ 音樂

續想ソウ文ブン戀レン代シ後

○ 畫圖

續 鐘磬像の儀 訂補

○ 歲時

補 七夕代迄

廣益俗說雜卷十九

井澤長秀 輯録

雜類

人物并官職

續 十善帝位代迄

俗に十善帝位と稱するものあり

今按ずる十善帝位といふ事は史實録より見て見

えはらふ。四十二章經に衆生以十事為惡身三口

四意三者殺盜婬口四者兩舌惡罵妄言綺

語意三者嫉恚癡 大藏一覽報應品 せむるより誤

るものあり 一は十善帝位といふことよりハ 俗に十善帝位と稱するものありて實に誤り

禁裏より入る僧尼以下不正者と禁より敬なり
伊豫大御多し佛法といふ僧尼と云ふ事ありゆ
る今ゆきまふて因位布衣僧尼大御物と稱
を女官といふも僧尼女御御書状にありとわ
る次先上古代遺法なり僧尼代わたりと
かきとや此段訂補

續朝臣より後

俗る女官を位り者を見るなり小朝臣と書きあり

今按ふに非なり日本紀云天武帝十二年十月
己卯朔詔曰更改諸氏之族姓作八色姓以天下

百姓一云真人二云朝臣三云宿禰四云忌寸五
云道師六云臣七云連八云稻置日本紀私記云
朝臣帝王相親之詞也言我身隨添之臣也友位
回答云むーハ六位り者も姓より後て朝臣と書
けり後て後朝院より後ハ禁裏なりと云ふ事ハ
六位りも禁裏なりと云ふ事ハ四位ハこれと書きあり
東秘抄云三位以上ハ氏朝臣より後て宿禰
なりと云ふ如く三位以下ハ名朝臣より後て
朝臣なりと云ふ事ハ六位より後て四位より
よりハ名以下ハ朝臣なりと云ふ事ハ四位より

考ふべき後多親王姓氏録と輯らるる一書に於
 いて一千一百八十二氏あり一書に於て
 己の姓氏取らるる一書に於て源平後橘乃四姓ありて此
 等に於て我より甚く人なるをとりて依り系圖を以て
 妄化し一書に於てわきま他よりてなるもの多しと云
 補姓も氏も元一にたり姓ハ體中氏ハ用なりと云ふも
 之のていへ源平後橘ハ姓なり姓ハ万世まで新田足利ハ
 系圖池楠ハ氏なりこれハあきより代ハなる源氏平氏後
 氏橘氏といふとも新田姓足利姓ハ系圖他姓補姓
 なるものいふもざるあり又新田足利ハ氏名なりと云ふ

平心ものなり又此なり見家号なりと名にハハ
 考へ知通一此段訂補

續 奏者中より

佐より云次乃者次奏者と云

今按ふに此なり海人藻芥云近日奉行頭人等内
 乃西次と奏者と稱ふと傍若無人也奏れ字ハ天
 子に於てその事なり此ハ國自以中ハ申次
 中と稱ふなり

續 大工中より

佐より云工匠と云へて大工と云ふ

各々

猶子と云

方書子然子くふまのわう

今按ふ。檀弓云兄弟之子猶子也。とあるは甥と按ふ。子と云ふは子然子也。といわくは

之君次檀那と云

向より君代なう称して檀那といひわるひわが寺は坊主然
那坊主といふものなり

今按房より書寄故事の僧道稱施主云檀那檀越
堂わまハ施主より僧と檀那坊主といふを誤なりといふ
ひやう表とや

穿人子說

多小至若此之域寒人と書

今按ふは非なり牢乃字ハ續字彙補ハ與牢同
と記すと字彙ハ牢ハ所ニ以テ拘罪人也とわろる君志此
者ハ浪人と書有レハ字柳子厚ハ況ハ出ずる文苑
彙雋ハ浪人踪跡無定止人也と見ゆ
貝東好古説

檢校勾當

信同は檢校勾當八音月代官とありて覺ゆる者なり

今按るに音月代とあるは山令別峯の一
山之主と檢校といふ檢校はもと僧官なり月代推
古記云自今以後任僧正僧都應檢校僧尼とあり
より始り職原大令云御佛事之時納言參議檢校
其事曰之俗檢校又云勾當專當在于真言家
禁秘抄云掌侍六人正四人權二人權自上古有
之付内以二内侍為勾當職原大令云内侍則指掌
侍也此四人内第一曰勾當内侍今長橋局是也又
國白家にも勾當といふあり職原抄にも勾當執柄

家ハ職事程代者也といふなりとありて其わやまり
といふなり

補 孫倉百官の流

信從云孫倉百官とありて初は百官と定め孫倉
は孫倉百官とありて東百官中より

今按るに孫倉百官城定らるる一平東繼以
下乃書より見ゆ信從は相る百官とありて信從
なり將門記は桓武天皇の代に孫倉の帝位は
とも子細ありとありて平親王とありて
ハ平親王とも孫倉とありて大長中納言參議文

武大弁八史等百官と事とわうけり此定然ある
とれあり

文籍

補 菅音江音ウ院

俗云今漢音吳音といふわやうなりびう一葉家
に家此字法とさう一と後家此讀法と菅音
江音といひたり

今按ふと眼より西峯松下氏云漢者ハ應神天皇
元と記さうと云應神帝十六年二月百濟王仁と

よめ給ふ王仁論語千字文次をのさえ事る帝
乃ち子菟及雅郎子王仁と昨とてさうくれ

典籍状をひ給ふ通曉さうとわいされ漢音の

さめなり大織冠孫足執政のと此百濟此尼法

明對るに事て吳音めて維摩經とよむ吳音の

さし然ちり事後より佛書状とむは吳音と用ひ

儒書とよむもの吳音は様一とされし日本朝學原

百濟の尼法明と事ハヤウの家と考へるへ

器用

再拜の儀

儀同ノ麾式再拜と云

今按予ノ非なり微原拙句解白井宗國云中世
麾式紙中へ記し其方より種々にきふと云
多麾と再拜とわやするもハ祝拜儀候なり
四度此拜の事と再拜と江家次第云本朝之風
拜云書方紙見て麻子一わきと云ふなり
まゝなり此類一紙を以て麾乃名と云ふ
ゆゑに此と云ふなり

音樂

續想文戀の儀

儀同ノ事ノ琴ノ奏ハ松の式にそめてあふくじ想
文急といふ樂なりと記す

今按予ノ卓氏藻林云相府蓮樂府歌王儉爲南
齊相一時所辟皆才名之士時人只爲入儉府爲
蓮華也謂如紅蓮映綠水今號蓮幕者自儉始後
笛曲訛作想文憐やんきり云々此ハ急と
記す此ハ誤なり

畫圖

鍾馗の像代注

俗同は鍾馗大臣の像とてよくとれり

今按し補宋沈括存中補筆談云宋征西將軍宗
鑑有妹名鍾馗後魏有李鍾馗隋將喬鍾馗楊鍾
馗然則鍾馗從來亦遠矣非起開元之時始有畫耳
鍾馗字一作鍾葵の續博物志云俗傳鍾馗起於
唐明王之夢非也北史云竟暄本名鍾葵字辟邪
干勁字鍾葵宋慤妹名鍾葵非特明王時但葵馗
二字異耳又曰終葵菜名本草綱目云謹按爾雅

云鍾馗菌名也考工記註云終葵椎名也菌似椎
形故得同稱俗畫神執一椎擊鬼故亦名鍾馗好
事者因作鍾馗傳言是妹第進士能吟鬼遂成故
事不知其訛也とりてハ信用とすはあつたりなり

此段小補

歳時

七夕乃注

俗同は七夕と書でたがふと訛り事なり

今按るはか綱上代は天棚機娘といふなり舊事
紀云今天棚機娘神織神衣遺同上倭姫世紀云

天棚機姫令織太神和妙御衣是名儀宮殿舎考證云齋

内親王川原殿院是也類聚神祇本源云建八尋殿屋令天

棚機姫神孫八千千姫命織太神御衣遷幸要畧神名畧記

所載同上續齊諧記云七月七日織女詣牽牛

此ハ武丁と云ふ也此ハ俗傳より來るものなりてあやまり事なり
ぬ難也云々半女之事始於齊俗云武丁之妾喜戚也情物志乘機
之傳流千載於婦人女子傳云喜可也又人云士乃習焉
俗傳天上外宿被汚蟻不亦可怪之甚耶。紀實云
喜集云まじくやと云ふれども一ぬたさるゝ
云々一々此俗乃て是なり云々 中わが誠牽強附
合して七夕をたかふと訓をゆゑたり云々

廣益俗說辨卷十九終



